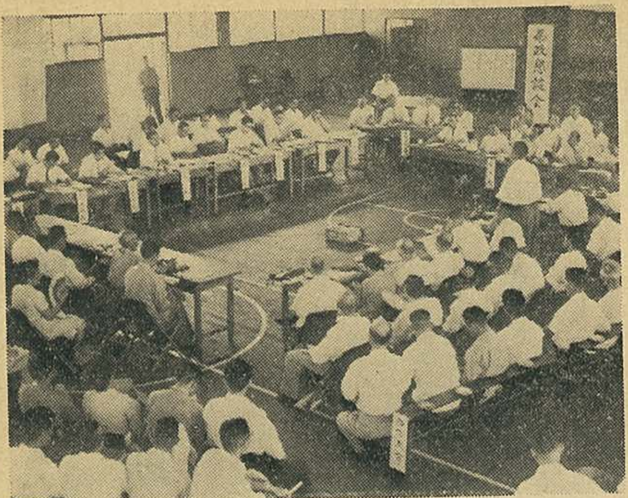
いまり
1部5円
発行所　伊万里市役所
編集兼発行人　児島清彦
伊万里市大坪町甲2869
TEL 710
印刷所　立花印刷所
TEL 886乙

市政の推進に拍車
実現を期し活潑な意見続出
県政懇談会


（県政懇談会）

七月十九日伊万里中学校屋内体操場で伊万里市、有田町、西有田村を対象とする県主催の県政懇談会が開催された。

県側は知事以下各部課長二十余名が出席、市町村各機関団体代表七十余名が出席、傍聴者を合せ参会者二百名を数えた。

午前十時三十分知事の挨拶に次いで、地元市町村を代表し橋口市長の挨拶があり三十数件内、町村提出五件に上る議題の論議に入つた。先ず伊万里湾総合開発問題についての質問を皮切りに

一、伊万里、佐賀間列車のスピードアップについて
一、県道改良舗装の早期実現について
一、観光資源の開発について
一、失業対策事業について
一、農畜産振興について
一、有田川振興策について

等市政に直結した県政のさし迫つた問題について活発真剣な質問要望が続出、これに対し県側から慎重詳細に回答がなされた。

最後に知事は地元関係者の県政に対する熱意ある関心と尽力に感謝、各位の要望御意見を身近かに承りその議題のすべてが県政の当面する極めて重要な問題であり逐次御要望に沿うよう努力する考えであり、今後更に各位の県政に対する絶大なる御協力を切望してやまないと、所信を披瀝午後四時半有意義かつ盛会裡に幕を閉じた。

市の人口世帯数
（7月1日現在）
人口　80.227人
世帯数　16.617世帯

在南米邦人招き講演
海外移住協会総会

土地の狭さに加え、年々人口の増加をみている日本農業経営の現状は、すでに一大転換期に直面しており国家的な重要問題となつているとき、わが伊万里市では農家二三男対策の一助としても移民政策を推進することが急務であると昨年八月伊万里市海外移住協会を結成し、移住の推進に努力を続けているが、その熱意はとみに高まつている。

協会では七月二十九日大坪小学校講堂で第二回の通常総会を開き、昭和三十四年度事業報告、決算承認、三十五年度事業計画、予算承認を議決、そのほか今後の移住対策についての審議が行われ、引き続き、たまたま来日中の南米野村農場総支配人牛草茂氏（唐津市出身）を招請し、「南米事情について」の講演会を催されたことは、移住についての理解を一層深めるとともに、今後の移住促進のしるべとしてまことに意義深いものがあつた。

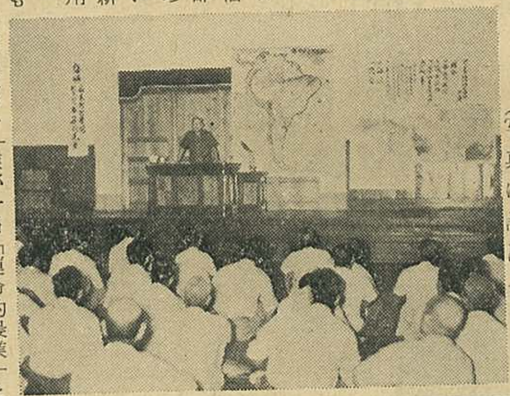
講演のあらまし

ブラジルは発見されてから四百六十年になるが、日本人が移住してから五十二年になり現在四十五万の邦人が主として南ブラジルに住んでいる。

南米は主としてスペイン語、しかしブラジルはポルトガル語である人種的偏見は全くない。

土地は広く日本の二十二倍もあり、大部分山地を占める日本と違い、殆んどが耕地として利用できる。

気候はとても良く、寒いときで日本の十月末位、暑さは最高三十三度程であるが、高原台地であるため湿度が低く、朝夕は非常に涼しく、日影はだ寒いくらいで衣類も夏冬まちまちという日本では考えられない風景である。台風、地震、がなく火事も殆んどない、病気も少く特に育児には最適といえる。食べ物も日本にあるものはなんでもあり、それにブラジル独特なものもあり豊富である。娯楽も映画、芝居なんでも日本ものを楽しめる。


（写真は講演会）

人口六千五百万、主食が米日本人の稲作は成績がよく従来のもみ播きを改め苗植で一Ha当り二百俵さらに二毛作で合計三百数十俵も収穫をあげている。日本農業が一名「運命的農業」といわれ、米麦を主産とするのに対し、ブラジルでは市場価格等の変動に応じて、ワタ、大豆、落花生、等各種の栽培計画が樹てられるブラジルには失業者や貧乏人はいないといわれるが、決して棚からボタ餅の楽園でもなく、金のなる木があるわけではない。当初から自分の資金にたよらず、下請け労務者として、土地の条件や耕作方法等を十分研究し自信をつけて除々に土地を買い独立することが賢明である。

今後移住を志ざす人々は先づ、健康と真面目さ、勤勉さが必要である。そして五十二年間営々として築かれた先輩邦人の信用と伝統を守り努力して貰いたい開発する余地は沢山あり頭の使い方で、成功のチャンスは幾らでも得られる。当市の市長は海外事情の体験も豊かであり、また、ブラジルには大先輩前田常左門氏をはじめ幾多の先輩が活躍しておられるし、まことに好条件である。どうか意気と熱意に燃える人々に移住の期待をよせるものである。

新農業委員会委員決る

農業委員会委員の選挙は去る七月十六日無投票当選となり、八月五日の初総会において、互選により、それぞれの役員が選任された
◎は委員会長　○は会長代理者　◉は県農業会議員

1.選挙による委員（二十名）
梅崎嘉一（大川）
田代政敏（大川）
◉副島元市（松浦）
田代義雄（松浦）
山口新助（南波多）
岩永治助（南波多）
中倉慶十（東山代）
鹿広一（東山代）
○林岩夫（山代）
山浦静馬（山代）
◎内山一（大川内）
中島太熊（大坪）
大川内一夫（大坪）
武重清次郎（松島）
西田竹一（二里）
金子末八（二里）
前川元治（波多津）
坂本源助（波多津）
小旗徳男（黒川）
○岩下儀市（黒川）

2.農協共済よりの推せん委員（十三名）
高田金治郎（波多津）
松園春美（黒川）
川口速人（大川）
松永清二（松浦）
向虎治（南波多）
川原幾治（大川内）
山口正次（大坪）
片岡一（牧島）
藤井安美（二里）
立石長七（東山代）
西山実（東山代）
吉田二三男（山代）
川久保蔵吉（山代）

3.市議会推せん委員（五名）
前田喜一（南波多）
犬塚勝（瀬戸町）
小島敬助（山代町）
山口重一（黒川町）
前山ユキ（松島町）

合計三十八名

第三回定例市議会

八月一日から三日間にわたつて開かれ、十七議案を上程一般質問、議案質疑ののち全議案が可決された。

主な上程議案

○市営住宅建設について
昭和三十五年度に次のとおり市営住宅を建設、第一種十戸（木須町清水浦）第二種十戸（山代町楠久）

○伊万里市固定資産評価審査委員会委員の選任について
本年三月選任された林岩夫氏（山代町）が農業委員に当選されたので補欠委員として、前田良一氏（山代町東分）を選任

○教育委員再任同意を可決
九月に任期満了となる山崎教育長松尾教育委員の再任について議会の同意が求められ可決さる、

○伊万里市立保育園条例の一部を改正する条例制定、
市立保育園として認可申請中の前平保育園（南波多町）が正式認可になつたため

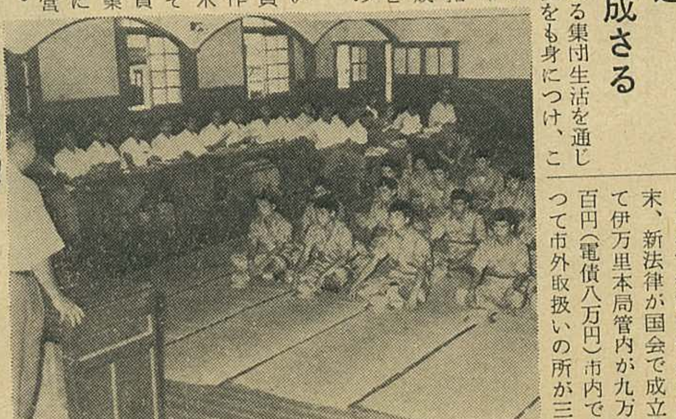
○その他一般、特別会計追加更正予算案等について審議された。

新しい村造りを推進
青年建設班結成さる

七月二十日午前十一時から大川公民館別館において、市長並びに各関係機関団体代表者出席のもとに伊万里農山漁村青年建設班結成式を挙行した。

これは市内各農協管下より選出された二十五名の班員で構成され、これからの新農山漁村建設の推進者として、いわゆる曲り角にきた農山漁村をいかに振興するか、特に貿易の自由化に伴なう農畜産物価格変動に対する農村経済のあり方、農業共同経営化、又農山漁村の治山治水等々山積する問題に対拠する技能、知識の習得及び実践力の涵養に努めることはもとより、自治機構による集団生活を通じて社会性をも身につけ、これからの農山漁村の中堅指導者養成を目的とするものである

なお賄い料は班員の労力作業、土木工事やその他班員の労作業の報酬により運営される。


（青年建設班結成式）

☆宿題はためるべからず
（夏休みの子供の指導中）
八月
「スミマセン……」

あと一息
米の政府売り渡し

昭和三十五年度産米穀の予備予約数量四万八千五百石に対して七月二十二日現在九四、一％（四万五千六百五十三石六斗）となつています

食糧需給の合理化をはかるためには、米の統制を維持していくことが必要でありますそこで予約数量に足らないあと三、九％はもとより余りの米は全部政府に売渡して下さい予約申込は九月末日までとなつていますので早目にお願いします

御寄贈二題

（その一）
最近行政事務の統合改善化が喧伝されていますが、その目的を円滑に遂行するためには、市民の皆さんの御理解と融和によりその対策が講ぜらるべきことは申すまでもありませんが、このほど松浦町市有林管理区委員会では市政の統合化の線にそつて出張所事務の円滑化をはかるため、バイク一台の寄贈がありました

なお二里、波多津両町の公民館にも区長会よりスクーターバイクの寄贈がありましたのであわせて御礼労々御被露申上げます。

（その二）
波多津町、藤田平太殿は父故政吉殿の香典返しとして一金六千円也を、市特別教育基金として寄贈されましたのでお知らせ致します。

貯金一兆円を突破
この上とも御協力を

伊万里郵便局から

皆さんの郵便貯金の現在高が六月二十九日ついに一兆円を突破致しました。

皆さんのお預けになつたお金は大蔵省を通じて県や市にも貸し出され、皆さんの生活に直接結びつく道路の建設や水道敷設あるいはお子さんの学校建設等の資金として明るく住みよい郷土を築くために使用されます

又皆さんの家庭にあつては老後の生活、お子さんの学資として、不時のそなえとしても是非御加入下さい。

郵便局では更に今後の御協力をお願い致しております

電話
実質的には安くなる
月賦も出来ます

伊万里電報電話局から

永らく皆様に御不便をおかけしておりました、伊万里の電話も局舎の新築で自動式電話としておめみえすることになりました。

施設の不備その他で新築や移転などの折、御迷惑をおかけしていましたが、自動電話開通と同時に、これらの御注文にも全部応ずる予定です。

ところで新設の代金は四月末、新法律が国会で成立して伊万里本局管内が九万三百円（電債八万円）市内であつて市外取扱いの所が三万三百円（電債二万円）と変りました。

これがため市中においては「電話は高くなつた」という印象が強いようで、加入権の売買価格もだいぶ上つているようですが、実質的には「電話は安くなつた」と考えられてよいのです。

と申しますのは今度発行の割引債券は支払金額の倍額（引受額八万円ならば額面十六万円）を十年後に償還するもので年利七分二厘という高利率です。

又証券市場で売買されていますのですぐ還金もできます。

又一時に大金を揃えるのは大変だといわれる方には新設代金が五万円以上に限つて、各銀行及び信用金庫で電話の加入権と債権証書を担保に融資し月賦返還の途もありますから、今まで以上に架設しやすくなつたといえます

新設を希望しておられる方でまだ、お申込みでない方は至急お申込み下さい。

なお、くわしいことは営業係（電話四五〇番）へお尋ね下さい。

…月の納税
市県民税第二期分
（別に納入通知書は差し上げませんから六月に発付いたしておきました納税通知書により納付して[illegible][illegible]さい。）

0181

〝うれしいな僕の名もある住民登録〟 ひっこしの届け（転居届）は十四日以内にしましょう

市一本化への前進
出張所を連絡所に切り替

市では今既定方針に従つて近接出張所を廃止し、市政一本化の線に沿つて事務の統一合理化をはかり、なお新たに連絡所を設けて、市民サービスの向上をはかる計画を進めております。しかし、出張所の切替に直接関係のある地元町民の方々には、或は御不満の点もあり、また御意見もあろうかと思われますので、一応市当局の考えをお伝えし、御諒解をいただきたいと在じます。

出張所の廃止は時期の問題
十カ年計画で具体化

二町七ヵ村の合併は地理的にも、また交通、文化経済の面からも密接な関係にある二町七ヵ村が、政治的にも財政的にも大同団結して、天然の良港伊万里湾を開発し工業都市をつくつて少しでもお互いの生活を向上させようというのがねらいであつたことは今更申上げる迄もありませんしかもその実現には単に施設や事務の統合だけでなく精神的にも混然一体となり、融和統合の必要なことは個々の家庭生活も同様、これ亦申す迄もない大切なことであります。

しかし遺憾乍ら現況は、市は名目だけで実質は出張所を中心とし町単位での活動面が多く、稍々もすれば地域感情も入り易く。市政の一本化に支障を来す点等懸念され、目に見えないマイナスの面もあろうかと思われるのであります。

そこで合併時に於て、関係各町村別に議決された「町村合併に関する申請書」にも、市役所、支所の統合整備に関する事項として、「……関係旧町村役場を支所として残す。但し将来に於て交通並びにその他の事情が改善された適当な時期に於て逐次統合する方針である」と議決されております。更に又昭和三十三年十二月十三日、市議会で議決されました、伊万里市建設計画書によれば「……本庁より比較的遠距離にある三出張所を除き、五出張所はできるだけ早い時期に廃止し、廃止後の出張所の施設は地区公民館に転用する…」と記載されており、更に具体化されているのであります。

社会教育の拡充は必至
市政は時勢と共に

昨今の機械文明の進歩は文字どおり日進月歩、目覚しいものがあり、停滞は明らかに退歩となるのであります。しかも戦後、日本は工業国へ転換を余儀なくされ、昨今の工業の発達は目覚しい躍進振りでありますが、農業を主体とするわが伊万里市の如きは、神武景気や岩戸景気には縁がなく、その上貿易の自由化に伴い零細農業の経営にはお互い真剣に考えなければならない面も多く、農民お互いの自覚を促し、これが究明のため話し合いの場が必要となり、社会教育の重要性は益々加重される点疑いの余地はありません。

昨今、先進各地で農業経営の共同化や更に農業法人の問題が話題となつております。すべてその打開策からであります。従つて独立公民館の建設は避け難いことであり、一般行政事務の統合に代つて今後公民館が町振興の母体となる必然の趨勢にあるといえましょう。

奉仕専門に連絡所を設置

では従来の出張所はどんなに変更されるのか。今仮りに町民の方々から、この際出張所は全廃すべきではないかと、積極的な御意見が出たとしたら、むしろ面喰うのは市役所当局で、市政の末端浸透のためには、何等かの形で出先機関が必要なことは、今更申上げる必要もありません。

そこで出張所を廃止し、戸籍や土地台帳の事務を本庁に統合しても、区長会や消防その他表面に見えないいろいろの用件があり、更に各人の相談ごとなど、市が当然お世話しなければならないことが沢山ございますので、そのために連絡所を設け、主任以下専任の職員を配置し、専らサービスに専念させる計画であります。つまり、これまでの出張所が、それぞれの町の公民館として発足し、町民お互いの話し合いの場として存分に活用され、更に市民サービスの足だまりとして、連絡所が併置されることになるわけであります。

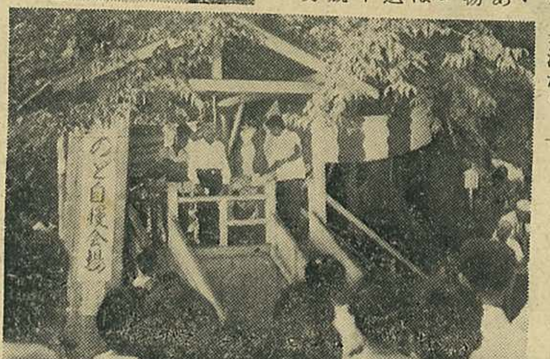
合併後六年もたつた今日、出張所が旧態依然として存在すること自体、已に不自然であり、更に実質的にも出張所の形態が変化しつゝある現在、連絡所に切替え時代の要求に応じた形態と内容を以て発足することこそ大切であると考えられるのであります。

当面する個々の少さな面のみに拘泥せず、市としての大きい立場から考え、この際多少の行きがかりを捨てゝ大乗的見地から、当局の方針に御協力いただきたいものと考える次第であります。何分ともよろしく御協力の程をお願い申上げます。

もり沢山の催し
賑わつた名物西瓜祭

夏の味覚の王者伊万里西瓜がお目見えする季節となり、その出来栄えを競う恒例の西瓜祭は七月二十六日伊万里保育園で催された。この祭りも早や五年目を迎え、新聞、ラジオはもとより、テレビを通じて広く全国に宣伝されトンテントン祭とともに、伊万里名物の一つとなつている。

出品点数は昨年に比べやや少なく黒川町の八十点を筆頭に総計一五八点、入賞は特等三点一等六点二等十五点、三等三十七点、栄えある特等には山代町金子博弥大川町井手礼太、黒川町坂口忠臣の三氏に決定した炎天下にもかかわらず、人出は意外に多く、千余名の人々が集まり、即売会では黒山の人だかり品不足のため、一つの西瓜を数人がうばい合うという場面もあつて売る者、買う者汗だく、今までにない盛況振りであつた。呼び物のミス西瓜コンテストには各地区から選出された二十二名が妍を競い、いづれ劣らぬ粒よりで審査も難航を極めたが、厳選のすえ、ミス西瓜の栄冠は黒川町兼武仲子さんの頭上に輝き、準ミス西瓜に二里町村岡アツ子さん、波多津町坂本ルイノさんがそれぞれ選ばれた。そのほか西瓜割り、西瓜の早喰い競争など、殊に今年初の試みとして催された「のど自慢大会」は予想外の好評を博しわれもわれもの飛入りがあり、やむところを知らぬ盛会さであつた。



写真上　ミス西瓜
〃下　のど自慢風景

地すべり
遭難者慰霊祭

昭和二十三年、三十二年の二度にわたる人形石山の大地すべりのため、尊い十名の犠牲者を出してから早やくも九年乃至三年の才月が過ぎ去りましたが、市では七月六日午後四時現地慰霊塔前において、橋口市長が祭主となり遺族、地元関係者、並びに一般市民の参列のもとにしめやかに慰霊祭を執行し遭難者の霊を慰めた。

消防夏季点検日程

月日	開始時間	実施分団	場所
八月十六日	午前七、三〇	第十二分団	山代東小学校
〃十七日	〃	第十一分団	東山代小学校
〃十八日	〃	第七分団	南波多中学校
〃十九日	〃	第八分団	大川中学校
〃二十日	〃	第九分団	松浦小学校
八月廿一日	午前七、三〇	第十分団	二里小学校
〃廿四日	〃	第六分団	波多津小学校
〃廿六日	〃	本部第一、二、三、四分団	伊万里中学校
〃廿九日	〃	第五分団	黒川中学校

幹部養成に力コブ
青年団の野営講習

市連合青年団、教育委員会共催による野営講習会が七月八日から二泊三日間にわたり二里町大里八幡神社境内に、各町中賢団員七〇余名が参加、和やかな雰囲気のうちに開催された。

下の写真は野営講習会

森林所有の方にお知らせ
市農林水産課より

森林造成事業は国土の保全と森林資源の確保、及び農山村の所得向上の面から国は法を定め国有林は勿論公有林、私有林共に国の施業案に従つて施業することになつております。これが実施については皆様の御協力なくては効果をあげることはできません。それで次の事項については御面倒でしょうが必らず規定の手続きをなされるようお願い致します。

① 伐採許可申請
伐採適期令級（杉三十四年檜四十年松三十年以下）に達しない森林を伐採する場合は許可申請書を提出して下さい。

② 伐採届出
伐採適期令級（杉三十五年檜四十一年、松三十一年以上）と雑木類の森林伐採の場合は伐採する六十日前に伐採届を提出して下さい。

③ 造林計画書の提出
後期造林十一月～三月十日までの造林については九月二十日までに、前期造林四月～六月までについては二月末日までに造林計画書を提出して下さい、なお私有林で一団地〇、一Ｈａ以上の造林に対しては補助造林の指定を受けます。

④ 造林完了届（補助金交付申請書の提出）
植林が完了したら直ちに所定の様式により完了届を提出し県の成工検査を受けた上造林補助金交付申請書に委任状を添え市役所へ提出して下さい。

⑤ 森林の保護について、森林病虫害の発生、森林火災の発生、天災による森林関係の災害発生については すぐに市役所へ報告して下さい。報告を受けると早急に被害防除の処置をして森林の被害を最少限にとどめ森林を守りましょうよう。

⑥ 樹苗の検査要綱について
近年苗木の需要増に伴い不良苗木の売込みが相当見受けられ折角の造林も不成績になる恐れがありますので県では苗木の検査要綱を定め優良苗木の需給の円滑化をはかつております。生産者は五月三十一日までに生産量の報告九月三十日までに山行苗生産見込量を報告することになつています、自家用、販売用を問わず是非報告して下さい。なお造林者は直接業者より購入をしないで市又は森林組合に申込んで県の検査合格品を購入して下さい、三十四年度からは直接購入苗木で植林されたものに対しては造林補助金の対象から除外されることになつています。大体以上のとおりでございますが詳細は市役所林務係又は農林事務所林業課へ御相談下さい。

夜空に画く
花模様

七月二十三日伊万里川川口に万余の観客を集めて盛大に開催された花火大会は次々と打上げられて夜空をかざる四百発の打上げ花火、満潮の川面に映える仕掛花火など夏の夜空を絢爛豪華な花模様に色どり涼を求めて集まつた人々をしばし夢の国へ誘つた。

伊万里川　川口附近における花火大会

がんの赤信号

最近の死亡原因で一番多いのは脳卒中で次にがんです。ことにがんは四十才から六十才位までの仂き盛りの人に多く、またがんによる死亡は年々増加しており、昭和三十三年には県下で三日に一人ずつどこかで仂き盛りの誰れかががんで死んでいるわけです。がんの早期発見のための赤信号を列記してかかげてみますと

① 胃腸のぐあいが長く悪い（胃がん）
② 子宮から不正出血やくさいおりものがある（子宮ガン）
③ しこりや、いぼがだんだん大きくなる（乳がん、皮膚がん）
④ 物をのみこむ時つかえたり、しみたりする（食道がん）
⑤ 大便に血がまざつたり大便が細くなる（大腸、直腸がん）
⑥ からせきが続いてときにたんに血がまざる（肺がん）
⑦ 原因がわからぬまま顔色が悪く、また貧血をする（すべてのがんに共通）

以上のとおりですので一人一人が自分の健康状態にはたえず注意いたしましょう

御寄附報告
昭和三十五年七月二十九日現在

月日	金額	住所	寄附者名	物故者名
七月十八日	五千円	立花町東円造寺	松尾照一	故長男 栄祐殿

外に匿名にて壱千六百五拾円也
月計　六千六百五拾円　累計　九万七百五拾円

右御厚礼申上げます

伊万里市社会福祉協議会